

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。

サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。

この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 21 年 7 月 1 日									
法人名	株式会社ケア21									
代表者(理事長)名	依田 平									
介護保険事業所番号	2	7	7	9	1	0	1	7	9	5
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホームたのしい家淀川									
事業所所在地	大阪市淀川区十三元今里1-9-6									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者 (氏名) 山田 憲治									
連絡先電話番号	06-6838-8421									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、

利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔の絶えない家庭的で静かに時間が流れる生活空間を作れるように一人ひとりの個性と主体性を尊重し、さらに地域社会との交流をもち地域社会のひとりとして生活できるよう理念をもち、運営規定として掲げています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、スタッフルームに運営方針を掲示し、管理者、職員は理念を再確認しながら理念に近づけるよう取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議などで地域のネットワーク委員長や地域包括の職員さんに理念や取り組みを説明し理解を得るように努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りの掃除や日頃の隣近所への挨拶を心がけている。また近くの喫茶店や商店街、美容院などを利用したり商店街の人に商品の配達を施設にってもらうなど家族様、職員以外の人との交流に努めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入って地域との交流を持つようにしている。また地域ネットワークの方の協力を得てアドバイスも頂いています。散歩などで十三公園に出かけたときには地域の方に声を掛けて、交流に努めています。昨年末にはデイサービスと合同で地域の人にも参加してもらい餅つき大会を開催しました。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者と積極的に商店街や公園に外出することで認知症になっても安心して地域で生活できる事をアピールしています。また運営推進会議のときに地域の代表の方と相互に協力させていただく事をお願いしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族や外部評価など第三者からの意見をもらうことで、グループホームの風通しをよくして自分たちが気付かない部分に目を当ててもらい、改善していきたいと思っています。今回、管理者、計画作成者、職員で自己評価を行いました。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいきたいです。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、生活の様子、現状、行事報告などを行なっています。また音楽療法、ドールセラピーなどの取り組みについても報告しています。地域包括センターの職員、地域の住民、家族さんから要望、意見、アドバイスを聞きサービスの向上に努めています。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも淀川区のグループホーム連絡会に参加して行政とのコミュニケーションをはかっています。また地域包括センターにボランティアの依頼について聞きに行くなどの市町村と連携を取りながらサービスの向上につながるよう取り組んでいます。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用されている方が1名いらっしゃいます。その方の後見人（司法書士）に後見人制度についてわからない事は質問して教えてもらうようにしています。職員にも理解してもらえるように話し合いの機会を持っています。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳の維持に努めています。社内外の研修に参加し、市の介護保険課からきたパンフレットなど全職員に配布し虐待について理解を深めるようにしています。また職員同士で気になる事があればカンファレンスを開催し話し合いの機会を持つようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には会社、ホームの理念、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得いただけるように丁寧に説明を行なっています。また質問や不安な事などを尋ねわかりやすく納得いただけるまで十分に時間をかけて説明するように努めています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しています。また利用者が日常生活の中で言葉にされた意見、不満、苦情等に対しては聞き漏らさないように努めるとともに職員間で情報を共有し、カンファレンスや朝の申し送り等で話し合い改善方法を検討し運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時には日々の生活の様子、健康状態等報告しています。また状態の変化が会ったときなどはその都度連絡して状態の報告を行なっています。ご家族様には毎月預かり金の報告を送っています。行事の案内など同封することもあります。</p>	<p>預かり金の報告を送る際手紙などをつけて様子を報告するようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しています。また重要事項にも管理者、本社、市町村へ意見、苦情等の窓口があることを明記して何かあればいつでもいってもらえることを説明しています。また面会や、電話などでの不満や意見などを聞いたときには聞き漏らさないようにし、職員間で内容を共有し改善などについて話し合っています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝の申し送りや月1回管理者を含めたカンファレンスを実施して意見交換している。また職員の意見を聞けるような環境づくりを心がけるとともに、二尾のコミュニケーションの中でも意見を聞くようにしている。聞いた意見について現場で解決できない事は上司に報告し、協力を得ながら改善できるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の希望に応じて柔軟な対応ができるように人員基準よりも多く人員配置し勤務の調整に努めている。また行事、散歩等に対応できるような勤務体制をとっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職については出来る限り避けるため職員からの相談には乗るように心がけるとともに働き易い環境を作れるよう努力している。異動については会社全体の事でもあり、難しいところではあるが、あった場合は引継ぎはしっかりして利用者、家族にも十分説明するようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員はすべて本社で2日間の研修を受けた後業務に従事している。また会社内では定期的に研修が実施されていて管理者が研修に参加してすべての職員に伝達研修を行うようになっている。また認知症実践者研修など社外の研修についても勤務時間内で参加できるよう勤務調整を行なっている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会に管理者が参加して他の施設と情報交換しネットワークを広げている。他の施設での事例などや、活動などを参考にしている。会社のほかのグループホームに見学に行ったり、研修にいったりすることで相互のいいところ悪いところに気付きサービスの質の向上に役立っている。		会社内の施設だけでなくほかの施設の見学などを行なって更なるサービスの質の向上につなげていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員との面談にて意見や悩みを聞き職員個々に対応しストレスの軽減に努めている。社会的には有休以外にも夏休（3日）冬休（4日）を設け職員がリフレッシュして勤務できるように休暇が取れるような環境体制を整えている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はほめカードを活用して職員の勤務努力を評価し、各自が向上心をもって働けるように努めている。運営者は管理者に権限を与えて管理者が勤務状況を把握して、上司に報告して職員個々が向上心をもって働けるよう環境づくりに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には家族だけでなく必ず本人と面談して困っている事、不安な事、要望等よく聞くようにしている。入居後も十分にコミュニケーションをはかり、会話の中で不安や悩みを理解するように努めている。また言葉だけでなく態度や、様子からも類推して本人の求めている事を受け止められるように努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学時から十分に時間をかけて家族が困っている事、求めている事を丁寧に聞くようにしている。また入居後の生活などについても十分に説明して不安な事などについては過去の事例などを取り上げながら納得いただけるように説明している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときには本人と家族が必要としている支援が何であるかを見極め、希望に添った援助が出来るか検討しています。グループホームを利用しながらできる事はホーム内で支援し、グループホームでの入居継続が最善でないと判断した場合には他のサービスを紹介するようにしています。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に生活歴、心身機能を把握してなじみの家具、衣類、小物、写真など持ち込んでもらうようお願いしている。入居前には家族だけでなく本人にもホームに来ていただき雰囲気などをしてもらえるようにしている。入居後は出来るだけ家族に面会に来ていただき、継続して家族からも情報収集してサービスにいかせるよう努力している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊敬しその人らしさを見失わないように支援し信頼される職員になれるように努めています。また寄り添うことを大切にして、共に喜び悲しむ共感者としての意識をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームは入居者、家族、職員が協力し本人の生活を支えていきたいということを見学時から伝え、契約時にもお願いしています。面会時には入居者の生活状況を説明し行事やレクリエーションにも参加していただいています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には家族とコミュニケーションを取るようになり心がけ、特に面会時間を設けず、気軽に来てもらえるようにしている。また職員にも話しやすい雰囲気になるように努めている。更には家族関係に考慮しながら、家族の考え思いも取り入れ一緒に関わってもらえるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居時に家族、友人に何時でも遊びに来ていただけるようお願いしています。本人が以前住んでいた近所の方が面会に来られる事あります。以前なじみだった十三の商店街に散歩の途中による事が有ります。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでの様子、その人の居場所を確保して入居者同士のかかわりがスムーズに行くようにしています。日々の日常生活の中での入居者同士の関係を見ながら食事時の席や外出の組み合わせなどの関係に配慮しています。また職員がパイプになり会話を楽しめるように図っています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、入院、他施設入所などの相談になっています。また継続的なかかわりが必要な入居者や家族に対しては付き合いを大切に継続的に関わっています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族、介護職員と十分に話し合い一人ひとりの意向を十分に聞いている。本人の意向を伺うことが困難な場合も表情を読み取ったり様子などが本人本位に検討しています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人から話が聞ける場合は、本人とゆっくり話す機会を多く持ちこれまでの暮らしを把握するようにしている。また本人だけでなく家族や在宅生活のときの担当ケアマネージャーとも連絡を取り、これまでの暮らしの把握に努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの生活や様子を通じて出来ることは出来ないことや好きなこと得意なことなどを見分けながら健康状態、気分などを含めて総合的に現状を把握するようにしています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスをもうけ意見や要望を反映させた介護計画を作成し実践しています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個々の状態に応じた期間で目標期間を設定し、期間終了時には再アセスメント、ケースカンファをおこなったうえで見直しを行うとともに、状態の変化があったときには本人、家族、職員と協議、検討した上で、新たな介護計画の作成を行っています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、気づき、これまでの暮らしの様子などケアのなかで得た情報を個別の記録に記入し、また申し送り、カンファレンスにおいて職員間で情報を共有している。その上で定期的にモニタリングを行い介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携での訪問看護、介護タクシー、福祉用具の相談、レハ、通院時の支援など多岐にわたるサービスの紹介、柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練は消防署の協力を得て実施しています。ボランティアを受け入れ手芸などのレクレーションや、踊りなどの催しを実施しています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や要望に応じて、他のケアマネジャーやサービス事業者に相談援助を行いほかのサービスを利用するための支援をしている。たとえば福祉用具の購入やレハなどです。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに入っていたりグループホームの運営やケアマネジメントについて相談に乗ってもらいアドバイスももらっています。		他の事業所の様子などを教えていただくことが出来、参考になる意見をいただけるので今後も引き続き協働してもらいこの施設の殻を破った発想をしていただきたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時本人、家族から今までのかかりつけ医との関係をよく伺い、今までのかかりつけ医との関係を継続することを希望された場合にはそのように対応しています。またグループホームでも医療機関と連携し24時間医療連携がとれる往診医が月に2回往診にこられています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループホームが提携している医療機関には認知症専門の精神科のドクターがいて月に1回定期的に往診にこられている。職員が相談したり入居者が適切な治療を受けられる体制作りにつとめている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置されていて、入居者の体調の変化や急変時の対応、職員の教育などに携わっている。職員は医療面、健康面について常に気軽に相談でき、適切な対応が取れるようアドバイスをもらっています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は本人に面会したり家族と連絡を取り合ったりして早期に退院してもらえるように支援している。また病院関係者にも連絡を取り情報交換に努めています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の方針を話し合っている。入居者の変化に応じその都度、本人、家族、職員、かかりつけ医と話し合いの機会をもち終末期のあり方についての方向性を決めている。本人、家族の意向を一番大事にしています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時に本人、家族に事業所の出来ること、出来ないことを書面を使って説明し納得してもらっています。入居者の変化に応じ出来るだけグループホームでの生活継続ができるよう、かかりつけ医と連携をとりながら取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	入居前に、認知症にとって環境が変わるリスクを 説明し入居時は出来る限り自宅で使っていたベッ トやたんすなどの家具や仏壇、写真など馴染みの ものを持ってきてもらうようお願いしていま す。また入居後も気づいたことや今までの様子な ど聞き取るようにしています。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	記録の保管や個人情報には十分注意しています。 個人情報の保管庫は施錠しまた介護記録などカウ ンターの上に置かないよう職員には注意していま す。コミュニケーションは大事だが尊厳のある対 応を心がけています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	入居者に寄り添うケアを心がけできるだけ会話な どコミュニケーションをとっている。また自分の 意見を言葉で表現できない入居者様でも態度や表 情で思いや希望を察するようにしていくととも に、家族とのコミュニケーションを深めその人ら しい生活をサポートできるようにしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	個々の生活リズムに合った対応を心がけていま す。起床時間、就寝時間などに関してもご本人様 のペース、今までの生活習慣に合わせるようにし ています。また毎日の決まりごとを作らず、その 日の天候などによって散歩に出るなど、入居者が 主体性を発揮できる環境を具体的に整えるように している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望 む店に行けるように努めている	月に1回の訪問理容を活用してカット、顔そりな どをしてもらっています。ご家族の協力を得なが ら本人の望む店に行っている人もいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングの横にある台所で毎日食事を作り、包丁で切る音や煮物のおいなど五感で感じていただくようにしています。簡単な皮むきやもやしの根とりなどを手伝ってもらったり、食事後の下膳、洗い物、テーブル拭きなど入居者と一緒に行っています。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーが好きな方、飲み物でも甘いものが好きな方など一人ひとりの好みに合わせて用意しています。お誕生日にはみんなでケーキでお祝いするなど楽しく生活してもらえるように支援しています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使い、個々の排尿パターンや排便状況を確認し、排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導し自然な排泄が出来るように支援しています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらえるように声かけ、入浴介助を行っています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は毎日掃除、換気をして定期的にシーツ交換、布団干しなども行い清潔保持に努めています。リビングにはソファを置き、いつでも気持ちよく休息できるように配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、カラオケやレクリエーションなど楽しく日々を過ごせるよう支援している。洗濯物たたみ、新聞を取りに行く、食事の準備の手伝い、掃除の手伝いなどの役割を負担にならない範囲で持ってもらい張り合いのある1日を過ごしてもらえるように援助している。		外食、旅行、買い物など外に出る機会をもっと増やして更に充実した生活を送ってもらえるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かり金として管理しているが本人の希望や必要に応じて随時使えるように配慮している。おやつや着るものなど一緒に散歩にいったり実際に見て買ってもらっているようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候、天気の良い日は極力散歩、買い物と一緒に行くようにしています。公園に行ったり近くの商店街に買い物に行ったりしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見の時期や、花火などの行事に合わせて家族の協力を得ながら出かける機会を作っている。		勤務上職員の確保が難しいこともあるが、ご本人の希望を聞き、家族やボランティアの協力を得ながら、旅行や外食など普段はいけない場所へも出かける機会を多く持てるようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を自宅に置いている入居者に対しては操作方法などわからないことがあればその都度説明しています。携帯電話をお持ちでない方が家族などに電話したいといわれた時にはホームの電話を使ってもらっています。家族、友人などから手紙が来た場合には必ず本人にお渡ししています。年賀状など本人からの希望に応じて職員が買ってき		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間等を設けず、いつでも気軽に訪問してもらえるようにしています。訪問された友人等には再度来所されるようお願いしています。来て頂いた場合はお茶など出してゆっくりくつろいでいただき訪問しやすい雰囲気を作っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的な行為の理解を深めるようにしています。ベット下にマットを敷く。離床センサーを設置するなどの方法で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、エレベーター等は鍵をかけずホーム内は自由に移動できる。玄関については安全確保のため施錠している。		まずは日中だけでも玄関の鍵をかけずに自由に出入りできるようにしていきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら所在や、様子を把握しリビングには1名以上の職員がいるようにして常に見守りを行い安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は鍵つきの倉庫に保管していますが、包丁なども必要な時は職員見守りのもと使っています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に見守りを重視して対応が遅れないように注意しています。薬は2人確認で対応しています。入居者個々の危険性を職員間で共有し注意しています。ヒヤリハットの記入で今後の改善策や予防策を見出し再発の防止に努めています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期の対応についてはカンファレンスなどで定期的に全職員に説明している。また救急対応などについてはわかりやすいところに手順を表示しています。		事故発生時の応急手当や急変時についての研修、訓練など全職員に定期的に行ってきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は実施しています。近隣の方とは交流を持つようにしています。		自治会、地域ネットワークなどを通じて災害時にはどのように対応、避難したらいいのか教えてもらっておき職員全員が把握するようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	会社からの施設マニュアルがあり、感染症に対する予防の取り決めが明記されています。具体的にはトイレ後、外出後の手洗いの励行。職員の手洗い、消毒の徹底。紙タオルの使用。排泄物については使い捨て手袋の着用。手すり、トイレなどは塩素系漂白剤を薄めたもので拭いています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はすべて加熱調理しています。食器類は食器乾燥機使用し箸は熱湯消毒しています。まな板、ふきん等はハイター消毒しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りを美しく掃除して植木を育てている。玄関には地域の方が作ってくださった手芸の作品などをおき、明るい雰囲気になるように心がけています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには七夕、クリスマス、お正月など季節感のあるものを作り飾っています。それぞれの居室に御本人が色を塗ったカレンダーを掲示しています。音やにおいなどには常に配慮して、食事の準備の時には調理する音やにおいが自然とするなど生活感を感じてもらえるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、食卓だけでなく、応接セットを置きソファでもくつろいでもらえるようにしています。食卓で他の方と食事がしにくい時などソファで職員と一緒に食事をすることで落ち着いて召し上がられます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が家庭的な雰囲気の中で安全で楽しい日々が送れるように支援していきたい。家族には信頼のあるホームにしていきたい。地域とのつながりを持ち、地域の方たちとの交流を通じて地域の方にもホームをよく理解していただけるようにしたい。外出の機会をふやし充実した幸せな生活を送ってもらえるように支援していきたい。